

クラッチアクチュエーター

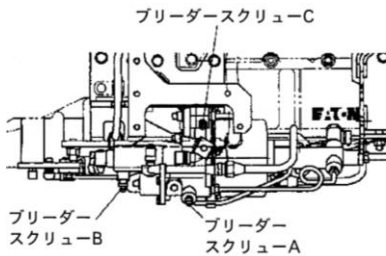
**重要**

この度は、クラッチアクチュエーターをお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
以下の内容につきましては、交換作業着手前に必ずご確認頂きたく、宜しくお願いいたします。

**交換作業時のご注意**

【エア抜きの手順】

■このクラッチアクチュエーターにはブリーダースクリューが3か所あり、「クラッチペダルを踏んで行う場合」と「エア抜き機を使用する場合」では順番が異なりますのでご注意ください。  
・クラッチペダルを踏む場合・・・ A→B→C  
・エア抜き機を使用する場合・・・ B→A

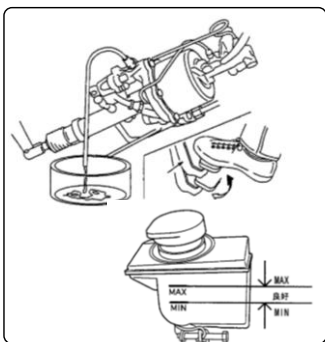


【クラッチ系統のエア抜き】

■クラッチペダルを踏んで行う場合  
a.クラッチプースターのブリーダースクリューAのキャップを緩め、エア抜き機を接続する。  
b.エア抜き用のビニールチューブをブリーダースクリューB先端に取り付け、端を1/3程度クラッチフルードを入れた透明な容器に入れる。  
c.ブリーダースクリューBをゆるめ、クラッチペダルを繰り返し踏み込み、ペダルが重く感じたところでブリーダースクリューBを締め付ける。

→マスターシリンダーにエアが入っている場合は、本手順でエア抜きが出来ない場合があるので、**エア抜き機を使用してエア抜きを行って下さい。**

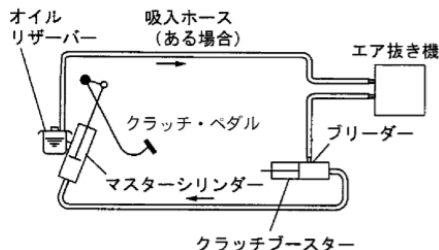
→エア抜き作業時は**車両エア圧は充填しエンジン**を停止した状態で行って下さい。



d.エア抜き用ビニールチューブをブリーダースクリューA先端に取り付け、クラッチペダルを4~5回踏み込んだ後、クラッチペダルを踏み込んだ状態で保持し、ブリーダースクリューAを緩めエアを放出させてクラッチペダルを戻す前にブリーダースクリューAを締め付ける。ブリーダースクリューAから気泡が出てこなくなるまで上記作業を繰り返す。  
e.ブリーダースクリューB部にて (d)と同じ作業を行う。  
f.ブリーダースクリューC部にて (d)と同じ作業を行う。  
g.オイルリザーバーの液量を「MAX」の線まで補給する。  
h.クラッチペダルの踏み応え、及び液漏れがないか点検する。

■エア抜き機を使用する場合

a.エア抜き機の補給パイプをクラッチプースターのブリーダースクリューB部に取り付ける。  
b.ブリーダースクリューBを少しゆるめエア抜き機を起動させ、ブリーダースクリューBよりクラッチフルードを圧送し、オイルリザーバー側へ気泡を抜く。  
c.ブリーダースクリューBを締め付ける。  
d.ブリーダースクリューA部にて (b)、(c)と同様の作業を行う。

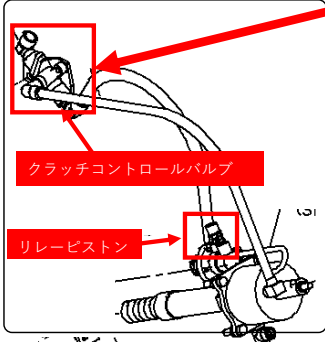


→エアブリーダは**2か所**あるのでブリーダースクリューB、Aの順のエア抜きを行う。

■エア抜き完了の確認

クラッチペダルをいっばいに踏み込んで、クラッチプースタープッシュロッドストロークが基準値内になることを確認して下さい。(基準値はメーカーの整備マニュアルをご参照下さい。)

【クラッチコントロールバルブ】



**クラッチコントロールバルブは**

■クラッチアクチュエーターの交換作業を行う際は、クラッチコントロールバルブも同時に点検が必要です。

→**エア抜きが完了しない、又は、数か月後エアが混入した等トラブルに繋がる可能性があります。**

【リレーピストン】

オイルミストの影響により、カップ・シール類が膨潤し早期故障、エアの混入等トラブルに繋がる可能性があります。

→**エアードライヤー、エアコンプレッサー等のエア関連部品の点検が必要です。**

トラブルシューティング

作業完了後、よくあるトラブル事例を記載致しました。もし、以下のような現象が発生した場合は、お手数ですが、もう一度ご確認の程、宜しくお願い致します。

現象	原因と対処方法
エアが抜けない	エア抜きの手順を再度ご確認ください。
クラッチが切れない	プッシュロッドストロークの調整を再度ご確認ください。